

## 第 8 回可児市地域公共交通協議会議事要点録 概要

【日 時】 平成 22 年 1 月 29 日（金）午前 10 時 30 分～正午

【場 所】 可児市役所 5 階第 1 委員会室

【出席者】 協議会委員 13 人、代理委員 2 人、欠席委員 4 人、事務局 3 人

### 1 会長あいさつ

#### 【あいさつ要旨】

本日は先回の協議会に引き続き料金について協議する。前回の会議で書面議決の話が出たが、運輸支局から会議で協議する案件との指導があり協議会を開催した。

#### 【その他】

会長のあいさつの後、会議要点録署名者として岡田委員代理の今瀬氏と小川委員の指名があった。

### 2 報告

資料 1、資料 2、資料 3 に基づき事務局から説明した。

#### （主な意見）

【発言者】 委員 事務局

12 月以降の運行便数と 1 便当たりの利用者数を教えてください。

12 月期の便数は 97 便、1 日当たり 8.1 便、1 便当たり 1.4 人で、1 月期の便数は 88 便、1 日当たり 8 便、1 便当たり 1.6 人であった。1 日当たりの便数は若干増えているが、1 便当たりの利用者はほぼ横ばいである。

停留所は天候不順時に軒下などを借りられる所を選んで設置していただきたい。

地域の公民館、集会所、病院、お店を基本に考えていきたい。

### 3 協議

資料 4 に基づき事務局から説明し、「電話で予約バス」の運賃は大人（中学生以上）1 乗車 300 円、障がい者と小人 150 円、未就学児童等は無料となり、回数券は 1 冊 3,000 円 11 枚つづりと 1 冊 1,500 円 11 枚つづりの 2 種類が発行されることになった。

#### （主な意見）

【発言者】 委員 事務局

#### 運賃について

利用者は安ければ安い方が良いだろうが税金にも限度がある。運賃の負担と税金の負担の中庸点を模索する必要がある。

事業の持続の可能性を考える必要がある。

運賃は定期的に見直せばよい。

国から示されたガイドラインでは、運賃は他の事業者との不当競争の回避、財政負担、安全運行、持続運行を検討して設定するよう記載されている。市内の鉄道の運賃、路

線バスの運賃、一般タクシーの運賃と照らして「電話で予約バス」の運賃は 300 円が妥当と考える。

300 円という数字はありがたいと思う。

デマンド検討会でも今渡、川合、土田地区運行協議会でも、現在のさつきバスが事実上 100 円なので高齢者にとって 300 円は辛い。300 円の説明は分かるが 200 円がありがたいという意見が多かった。

すべての案で「電話で予約バス」の方が補助金が少なくなっている。今まで 100 円だった運賃が 3 倍になるよりは倍ぐらいが良いと思うので第 2 案が良いと思う。

高齢者の運賃は 200 円で一般は 300 円で良いと思う。さつきバスの利用者はほとんどが高齢者で、運賃 100 円が 300 円になるのは辛いと思う。

ほかの事業者とのバランスを保つことによって長く公共サービスと事業者との共存ができると思う。そこはとても大切でありバランスは大切にしたいと思う。

今渡から広見までタクシーで 1,500 円かかる。「電話で予約バス」の 300 円は妥当と思う。

今までのいきさつと高齢者、利用者、一般の方を考えると第 4 案が一番良いと思う。

第 3 案の意見はなかったので、第 1 案、第 2 案、第 4 案の多数決で決める。

本日の出席委員は会長を抜くと 14 人である。本協議会の設置要綱の第 6 条で、出席委員の過半数で決まるとなっている。多数決の結果、第 1 案は 9 名、第 2 案は 4 名、第 4 案は 1 名であった。

#### 利用者と収支について

利用者が実績の 2 割増で試算されている。当初の計画では利用者が 3.7 倍になる見込みだったがそれは変更されたのか。

利用者が 3.7 倍の計画はない。5 か月で前年度比 100%の利用者となり、高齢化によって公共交通機関を利用する人口が増え、PR を重ねるので 2 割増して試算した。

収支率がよく分からない。

平成 20 年度のさつきバスの川合土田線の実績では、262,182 円の運賃収入があり、5,511,100 円の費用があり、収支率は 4.8%となる。運賃案 1 の試算では、利用者は平成 20 年度の川合土田線の 2 割増しとし、一般、高齢者、障がい者、幼児は同じ割合で案分した。収入は回数券利用を見込み 819,021 円と試算し、便数は運行日の増加を見込み 2,134 便と試算した。走行距離は利用者が増えると距離が延びると見込み 6km とし、経費を 3,047,352 円と試算した。収支率は 27%に改善され、市補助金は 5,248,918 円を 2,219,360 円に圧縮できる見込みである。

#### 補助金について

1 便の乗車人数はどのように想定しているか。

1 便の人数が増えるかどうかは非常に大きい問題である。1 便の運賃収入が 268 円とすると 680 円の補助単価で運行事業者の実収入は 948 円になる。

運行日が増えるので利用者は分散すると考える。運行経費と運賃収入の実績を基に補助単価を決める考えである。

「さつきバス」は行政が行っているので、コストに対して補助が必要なら行政が税金で補助すれば良い。

経費の不足分を税金で負担する形になっているがこれも限度があり、税金を幾らつき込んでも良い話ではない。

電話で予約バス」の名称とマグネットシートについて

今回のデマンドバスを可児市では「電話で予約バス」という名称にしてはどうか。

「バラタクシー」はどうか。

分かりやすい名称が良い。

今渡、川合、土田地区の運行協議会では「乗合タクシー」の名称の意見があった。今後時間をいただいて改善を考えていきたい。

利用者に分かりやすくするためにマグネットシートをボンネットの上に付けることはできるか。

運輸局の許可があれば良い。

#### 4 閉会

会長から、本日の協議会では非公開部分はないことの確認と委員の任期満了のお礼があり、協議会を閉会した。